

青銅合金 铸造用地金

JIS H2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949

販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143

63S・D粉 銅・真鍮粉

(株)アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市浜川町2-9-27
本社(06)4307-0600

三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルミセンター(0595)45-6510

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443 代表

購読料 半力年44,100円(前納) 3力月22,050円

輸入はスクラップを除き減少

アルミ輸出は増加、円安などで

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

【概況】二月前半は、G7共同声明の解釈を受けての混乱からの円高やそれに伴うG20での日本への円安牽制への警戒などマイナスマテリアルもあつたものの、一月の米雇用統計で失業率が七・九%減ったことや、日銀白川総裁早期辞職に伴う、日本経済のファンダメンタルズ好転期待から、LMEアルミ相場は二、一三ドル(現物後場買)と約五三ドル上昇しての前半締めとなった。

後半は注目のG20でアベノミクスによる日本への名指し批判がなかったことや、一月の米新築住宅販売件数やケース・シラー指数が上昇するなど好材料もあつたが、金が節目の一、六〇〇ドル割れをおこしたこと、欧州新車販売台数が一月としては過去最低だった事。イタリアの総選挙で与党が上院で過半数を取れなかった事による政局不安から暴落、三月四日現在、LMEアルミ(現物後場)は一、九一九ドルと二〇三三ドル暴落してのスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比九・九%減の七五万台、五四台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比二・二%減の二九万二、三九九台。

中国 一三年の精錬すず輸入は減少

高水準の在庫と国内生産増加で

国内価格は当面LMEを下回るかアナリ

アナリストとトレーダーが七日語ったところによると、二〇一三年に入ってから、これまでの中国の精錬すず輸入量は、高水準の在庫と国内生産量の増加を背景に、前年同期比減少した。通年でも前年比減少する公算が大きい。中国はすずの消費、生産で世界一位。一二年の輸入量が過去最高となり、国際市場の供給を圧迫したことから、ロンドン金属取引所(LME)のすず価格は二二%上昇して最高のパフォーマンスを見た。

国際すず研究所(ITRI)関係者は一二年の中国在庫について、「精錬すず・インゴットが一萬八、〇〇〇トン拡大し、全体を押し上げた」と指摘。ただ、在庫の具体的な数字は明らかにしなかった。また、「新たな供給が一三年の輸入を抑制するとともに、国内価格は今後数力月間、おおむねLME価格を下回る水準にとどまるだろう」と述べた。

アルミ二次合金生産の減少幅縮小

圧延・押出生産は減少幅拡大

(一面より続く)

◆新設住宅着工戸数

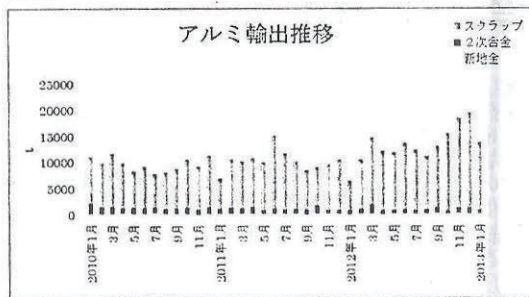
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比五%増の六万九、二八九戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比一五八%増の一四四t、二次合金が二・一%増の七四三t、スクラップが一三・四%増の一三、七七〇t。

	11月	12月	1月
新地金	1229 t	142 t	124 t
前年比	+37.1%	+12.7%	+158%
二次合金	1041 t	1193 t	743 t
前年比	+45.4%	+61.9%	+2.1%
スクラップ	17139 t	18133 t	12770 t
前年比	+95.2%	+87.3%	+123.4%

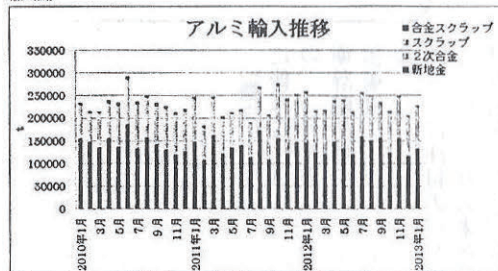
輸出推移



出典 財務省貿易統計

	11月	12月	1月
新地金	15万4904 t	11万5743 t	13万1664 t
前年比	+28.6%	-21%	-9.2%
二次合金	9万299 t	8万0924 t	9万1268 t
前年比	-22.7%	-19.6%	-16%
スクラップ	631 t	676 t	1161 t
前年比	+13.1%	-11.9%	+86.5%
合金スクラップ	3091 t	2302 t	3296 t
前年比	-45.9%	-52.5%	-43.4%

輸入推移

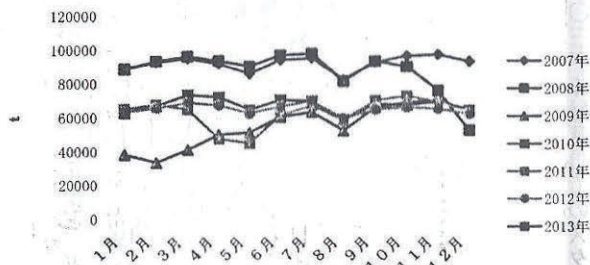


出典 財務省貿易統計

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・五%減の六万二、九四二tであった。

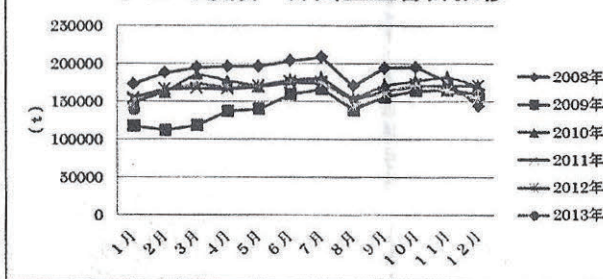
(六面に続く)

アルミ2次合金等生産実績



出典 日本アルミニウム合金協会

アルミ板類・押出生産合計推移



出典 日本アルミニウム協会

【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比八・四%減の一三万八、七一九t。

アルミ原料需給はひっ迫の様相

LM E
アルミ 下値は一、九〇〇ドルか(二面より続く)
【見通し】

二月は、イタリア モンティ首相率いる与党が上院で過半数議席を取れなかったことによる政局不安が台頭。総選挙の可能性も残されているが、現政権の緊縮財政が中止になる可能性もあり今後注目。また三月一日に米「財政の崖」問題で与野党の調整がつかず、強制歳出削減の一部が実行されたものの、半分以上は防衛費のためすぐにどうこういう問題でもなくマーケットも反応薄だがこちらも今後の動向に注目。

自動車生産は前年比九・九%減といまだ二桁に近い悪化、販売の方もほぼ前月と同じ減少幅の一・二%減とまだまだ減少基調。

住宅関連は先月に続き五カ月連続増加、前年比五%増(季節調整済み前月比一・九%減)の六万九、二八九戸。ただ五カ月ぶりに一桁増加に減少。復興需要や消費税アップ前の駆け込み需要など今後の動向に注目。

自動車関連のアルミ二次合金生産は引き続き前年比一・五%減と五カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。

大幅円安に伴う割高感からの国内塊回帰から需要増で減少幅縮小との見解。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前年比八・四%減と再び悪化。ただ昨年はタイ洪水に伴う代替生産増からの比較で昨年対比では一・一%増と上昇している。

輸出は新地金が前年比一五・八%増の一・二四t、二次合金が二・一%増の七・四三t、スクラップが一・三・四%増の一・二七t。大幅円安や輸出が好調な韓国への輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比九・二%減の一・三万一、六六四t、二次合金は一・六%減の九万一、二六八t、スクラップは八六・五%増の一、一五t、合金スクラップは四三・四%減の三、二九六t。

地金系は大幅円安からの輸入塊の割高感から減少、スクラップは輸入塊の割高感からより安いスクラップへ原料シフトしたことによる増加との見解。

原料需給に関しては供給不足。

上昇幅が減少したものの先月に続き新設住宅着工数が前年比五%増と五カ月連続回復の兆しあり、また最大需要家の自動車メーカー

も、内需の回復や円安に伴う輸入塊価格の割高感から国内塊への回帰が起こっており、今後は国内二次合金需要が増加するためスクラップ需要も増加するのではないかと。

LM Eアルミ価格に関して新規材料としてのイタリア政局不安が台頭、モンティ首相率いる現与党が上院で議席を過半数とれなかった事による緊縮財政の遅れ懸念や「米財政の崖問題」で強制歳出削減の一部が実行など悪材料もあるが、政局不安に関しては再選挙の可能性があること、財政の崖に関しては削減の半分が国防費である事からすぐどうこう言う問題ではなく、想定内との事からセンチメントがあまり悪化するとは考えておらず、上値は二、二〇〇ドル。

下値はセンチメントが悪化しても経済指標などの好結果からのファンダメンタルズが下支えし、下値は堅いとみられることから一、九〇〇ドル。

スクラップ価格についてはLM E価格の下落を受けて多少調整が進み、二月後半価格から、据え置きもしくは五円程度の値上げがあるとの予測。

二三 世界自動車生産約三%増へ

米国と日本は二ケタ増の予測国際自動車工業会

国際自動車工業会(OICA、本部パリ)は六日、二〇一二年の世界の自動車生産が前年比五・三%増の八、四一四万二、二〇九台と、前年に続き過去最高を更新したと発表した。今年も同三%程度上回る見込みだとみている。

地域別の生産実績は、北米が前年比約一七・二%増の一、五七九万四、五九〇台、南米が同二・〇%減の四二二万八、七六三台、アジア・オセアニアが同七・七%増の四、三七〇万九、九九九台。欧州連合(EU)が同七・三%減の一、六二四万〇、四七六台と落ち込みが目立った。

国別で見ると、米国が同一九・三%増の一、〇三二万八、八八四台、日本は同一八・四%増の九九四万二、七一一台、ドイツは同八・一%減の五六四万九、二六九台(大型バスなど除く)、中国が同四・六%増の一、九二七万一、八〇八台。